

クラス番号	603	担当教員名	柏倉 秀克
テーマ	障害児者の理解と支援－支え合い、ともに生きるために－		
著書・論文	著書	『障害者心理学への誘い』みらい 2012 (単著) 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』久美出版 2009 (編著) 『中途障害者の心理と支援』久美出版 2008 (単著)	
研究課題等	研究課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の自立と地域生活支援に関する研究</li> <li>・リハビリテーション心理に関する研究</li> <li>・特別支援教育における教材開発に関する研究</li> <li>・障害学生支援に関する研究</li> </ul>	

## ゼミナール概要

キーワード：障害，障害児者，家族，仲間（peer），障害児者心理，特別支援教育

最近，子どもたちの自尊感情の低さが問題となっています。自分は何をやってもだめだ，と感じてしまう子どもたちが増えているのです。中でも障害のある子どもたちの自尊感情の低さは際立っているとの指摘があります。

生まれながらに障害のある子どもたちの生きづらさは，以前から指摘されてきましたが，病気や事故で障害を受けた場合も深刻です。障害という体験は人の心に深い傷を残します。担当者は特別支援学校の教員として，障害を負った後，精神面に深い傷を抱える人々を数多く見てきました。障害を負った人は外科的な治療を終えたとリハビリテーションを受けます。その上で特別支援学校への転校，成人の場合は新たな就労を目指すこととなりますが，障害という体験が原因となって心の問題が尾を引いている場合が多くみられます。

障害によってもたらされる困難は，心の健康に強く作用します。近年，心の回復を促す方法としてソーシャル・サポートが注目されています。専門家の援助とともに，家族や仲間による支援（peer support）が心の回復を促すという報告があります。担当者はこうした問題を抱える人々の支援に携わってきました。

このゼミでは障害のある人々が抱える困難をさまざまな視点から分析します。さらに障害のある子どもたちの育ちと将来の自立を支援する方法について検討します。研究の対象となるのは障害のある人（子ども）や家族，特別支援教育で学ぶ子どもたち，セルフヘルプ・グループ（本人や親の会）です。調査フィールドは「母子通園施設」，「障害者地域生活支援センター」，「障害者リハビリテーションセンター」，「特別支援学校」，「盲導犬協会」などを想定しています。その他ゼミ生の希望を取り入れ，さまざまなフィールドで調査研究を進める予定です。

[ゼミの流れ]

春季休業中：新3・4年の合同合宿（1泊2日）

3年次前半：ゼミ員の問題意識の整理，基本文献の選定と購読，夏季合宿（2泊3日）

3年次後半：調査研究方法の学習，卒業研究の計画書づくり，新3・4年の合同合宿（1泊2日）

4年次前半：研究テーマに沿った調査研究，卒業論文完成に向けた夏季合宿（2泊3日）

4年次後半：卒業論文の完成，国家試験や卒業後の進路に向けた学び

## 担当教員からのメッセージ



卒業後，①障害児者福祉関係の専門職，②児童福祉関係の専門職，③特別支援学校や特別支援学級の教員，④小中高校の特別支援教育コーディネータ，⑤スクールソーシャルワーカー，⑥福祉系大学院進学などをを目指す学生を歓迎するとともに，その実現にむけた支援を行います。ゼミは真剣に学ぶ場であると同時に，思い出作りの場でもあります。フィールドワークや合宿，ゼミコンなどさまざまな時間を仲間や教員と共有できる学生を歓迎します。